

令和5年度 浜松開誠館中学校・高等学校 学校評価(自己評価)

教育宣言	ユネスコとSDGsから世界を学び、徳育より日本の心を育みありがとうの拡がる学校
学校教育目標	主体的でたくましく心豊かな地球市民の育成をめざす ・自分の意思を言葉に出し行動できる ・周囲の幸せを考えることができる
令和5年度重点指導目標	1. 「和」の心を大切にした本校の教育の柱「徳育」を確立する。 2. ユネスコスクールとしての誇りを持ち、課題解決に向けて主体的に考え行動できる生徒を育成する。 3. 学力向上(依存的学習者から自立的学習者へ) 外部指導支援とともに歩む

学園重点目標	①徳育教育の浜松開誠館と外部評価の声が高まる指導力を発揮します。 ②愛情教育と愛校心で楽しく学ぶ学校を目指します。 ③ユネスコスクールとして豊かな発想と思考力を導く指導と主体的行動が広がる教育力を発揮します。 ④SDGs＝浜松開誠館の評価を得る活動をします。 ⑤英検＝浜松開誠館の評価を得る実績確保に努めます。 ⑥再エネ100宣言REAクション参加校としての実践活動に努めます。 ⑦「立ち止まり挨拶」100%実現のできる指導をします。 ⑧「ICT教育」「グローバル教育」の安定・充実を強化し、結果のみえる指導をします。 ⑨本校の働き方改革を厳守します。 ⑩本校No.1の教職員を目指し、来年の創立100周年の目標、西部地区私学No.1の実現へ繋がります。
--------	--

評価項目	目標	具体的な活動・取り組み	判定	成果および改善点	学校関係者評価委員による評価 (R6.3.6実施)	
					は 自 適 己 切 評 価	学校関係者からの主な意見(抜粋)
徳育指導	・徳育事業(授業・出張授業・オープンキャンパス)の充実を図るために、綿密な計画準備のもと、組織的、且つ長期的に取り組んでいく。 ・徳育授業の質を高め、維持・管理する。 ・K-compass roomやライブラリー室の教材などを管理し、整理整頓を徹底する。	・徳育の情報(教育価値)を発信する ・生徒の自己実現力や進路実現に繋がるように取り組む ・「K-compass」プログラムの内容を見直し、修正、改訂を行う ・「7つの習慣」のシラバスやプログラムの管理を行う ・環境整備の徹底に努める	B	・徳育の情報発信には至らなかった。再度、企画を練り直し、対象者を絞って効果的になるよう取り組んでいく。 ・生徒の自己実現力や進路実現に繋げるためには、ファシリテーターのスキルが必要になるため、今後も研鑽を積ませていく。 ・K-compassは、現在も継続して見直し中であり、修正、改善に向けて検討している。また「7つの習慣」の修正は、FCEに依頼し徐々に修正、改善されている。 ・Kコンパスルームのレイアウト変更を計画し、グループワークなど取り組みやすい形にしたい。	B	・年齢の差なのか中学生より高校生の方が挨拶ができています。 ・学校HPやClassiなどで簡単にわかりやすくまとめたものを保護者にも発信してほしい。 ・目標に対する「具体的な策」が、具体的にないの取組みにくいのではないかと。
学習指導	・新学習指導要領を実践し、研修テーマにより研究授業を行い、質の高い授業を目指す。ICT機器を活用した授業実践をサポートする。 ・評価評定の適切な実践に向けた支援・管理、計画的な教務業務の遂行を促す。 ・学習環境の整備を行う。読書活動の充実を図る。	・教育関係時事の情報提供、研究授業・参観の実践とフィードバック。 ・Qubenaの利用状況把握・事例共有をし、ICT活用教職員講習会を実施する。 ・授業の形の実行を呼びかけ、生徒自身が振り返りをし、生徒自ら学習環境を整える。 ・評定基準の見直しをする。また、入力された評定の確認・評価の妥当性の確認をする。 ・図書館便りを活用し、定期的に図書を紹介をする。読書週間等の呼びかけをする。	B	・教育関係時事の情報提供は充分にできなかった。研究授業はICT公開授業を行い、校内での研修にもつなげることができた。 ・中学のQubenaの利用状況は良好である。 ・授業評価において、生徒自身が授業の様子を振り返ることができた。 ・評定基準の見直し・評価の妥当性の確認は継続中である。 ・図書館便りを活用し、定期的に図書の実践することができた。	B	・定期試験廃止に伴う効果について知りたい。 ・研究授業で教員同士が授業を見られるのはよい。学校全体で生徒が学習や読書に自主的に取り組むような企画ができるとよい。 ・ICT公開授業を参観したが、内容がわかりやすく良かった。
進路指導	・SDGsをふまえた世界・地域社会に貢献する目的と意志を持った生徒を進路活動を通して育成する。 ・生徒・保護者の希望をふまえながらも、より高い目標を目指すように促し、進路実績、生徒募集活動に貢献し得るものになるように各学年で進路支援を行う。☑	・SDGs・社会貢献をふまえて将来を見据えた進学先を考えられるよう助言を行う。 ・教員の進路指導力向上のための研修会を企画し運営する。また模試の受験において十分な活用となるよう、生徒、教員に対し事前指導・準備・実施・事後指導を行う。学力向上会議を開催する。 ・マナビングと連携し、学年教員、生徒へ落とし込みをする。 ・校内大学説明会(KUコネクト)等を実施し、進学意識を高めさせる。	B	・6～10月に校内大学説明会を昨年に引き続き開催した。パンフレットやホームページでは得られない大学の生の情報を生徒は聞くことができ、大学について情報を得る機会となった。 ・進路説明会や保護者進路説明会、進路講演会を各学年適切な時期に実施した。 ・校内で実施された進路活動の様子は本校ホームページで発信した。年々増加傾向にある総合型選抜についての指導を検討していくことが課題である。	B	・保護者も進路指導室にある資料を見ることができたら良い。 ・SDGsの取り組みが進路決定にどの程度関連や効果があったのか知りたい。 ・学校からの発信に対し、生徒がもっと興味関心を高められるよう家庭の後押しも必要と感じる。 ・大学生の情報を聞くことができるのは良いと思う。
生徒指導	・生徒指導を通して、社会で通用する考え、行動がとれる生徒を育成する。 ・生徒会や専門委員会の活動等を通して、生徒自らSDGsを意識した活動やよりよい学校づくりを目指し、主体的に活動を行えるようにする。	・週1回、各学年の生徒指導担当者が集まり、課題を共有し、学年教員、生徒へ落とし込みをする。 ・校則検討委員会を引き続き設置し、定期的に意見交換を行う ・生徒集会や生徒新聞の発行、各専門委員会の掲示板などを通して生徒による情報発信を積極的に行う。 ・SDGsを意識した活動を計画・立案・実施できるよう助言する。	B	・週1回、各学年の生徒指導担当者が集まり、課題を共有し、学年教員、生徒へ落とし込みをすることができた。 ・校則検討委員会を引き続き設置していたが、議論を続けていくような議題があがらなかった。 ・生徒集会や生徒新聞の発行、各専門委員会の掲示板などを通して生徒による情報発信を行うことができた。来年度は専門委員会の新聞作成を通じて、より活動を充実していくことを計画している。 ・各専門員会を通じてSDGsを意識した活動を計画・立案・実施できるよう助言できた。	B	・校則の修正などが多くの学校で見られ、とても取り組みにくい時代になっているが、自主性だけでない節度ある指導も必要。 ・指導者のコンプライアンス意識の向上をさらに推進してほしい。 ・髪形の校則の変更、カジュアルデーなど生徒の自主性を育てて一助になっている。
保健安全管理	・生徒・教職員の心身の健康への支援と不登校・いじめ等の予防、早期発見する。 ・校内美化を推進し、用具を大切に扱う意識の向上を図る。 ・防災意識の向上を図る。☑	・いじめアンケートなどを実施し、いじめ等の予防、早期発見をする。 ・清掃方法を変更し、一人一人が責任を持って清掃に取り組めるよう環境を整備する。 ・篠原グラウンドの避難を含めた防災訓練の企画、運営を行う。	B	・hyper-QU検査を実施し、クラスごとの特徴について説明会を実施し、生徒理解につなげた。 ・不登校や悩み等について、HyperQU・知能検査の結果と併せてスクールカウンセラーによる教育相談を実施し、関係職員で共通理解を図った。 ・教育相談関連記事を2ヶ月に1回程度配布、年2回のいじめアンケートを実施し、その後の追跡調査をおこない、いじめの防止に努めた。	B	・教室内外での生徒の様子の把握に努めてほしい。 ・いじめや不登校については実際の数字などで確認していないので、分からないが、感染症の流行については仕方ない。 ・スクールカウンセラー等相談できる窓口が増えると良い。
保護者等への情報発信	・情報発信を強化し、オープンキャンパス等において魅力を発信する。 ・イベントの司会を生徒に任せるなど今まで以上に主体性を前面に押し出す広報イベントを開催する。☑ ・SDGsを通じたグローバル教育をブランディング戦略の柱とした情報発信を行う。	・広報イベント告知ツールの作成、配布およびアリーナⅡ電光掲示板を有効活用する。 ・Webマーケティングを重視し、ホームページ・SNSを随時更新し広く発信する。 ・他校にはない教育活動等のメディアへのプレスリリースを随時行う。 ・生徒主体のオープンキャンパスを実施し、生徒による学校紹介動画の作成発信を行う。 ・SDGs部の活動や気候マーチ等グローバル教育を随時内外に発信する。	B	・ホームページ、電光掲示板において学校行事、学年活動など本校の教育活動について随時発信した。 ・オープンキャンパス等広報イベントで生徒が司会を行った。次年度は企画などでも生徒の参加を促したい。 ・甲子園出場等の運動部の活躍とともに文化部、SDGs部の活躍や学校の取り組みなどを多くのメディアに取り上げていただいた。	B	・学校HPと各部活のSNSなどの連携について知りたい。 ・Classiの活用による保護者とのやりとりは良い。 ・「在校生 保護者向け」と「外部広報」と分けて判定してほしい。
地域住民との連携	・学校と地域の有機的な連携と協働体制を構築する。	・地域住民の方々に学校行事(文化祭や体育大会)の案内を出し、参加をさせていただくことで、本校の取り組みを知っていただく。 ・地域福祉協議会との関係を築き、地域からの要望に応え、諸活動に協力する。 ・アリーナⅡのPPAモデルによる太陽光発電システムを設置し、SDGs教育と連動した再エネ比率向上の取り組みや施設充実、地域貢献を行う。	B	・真澄祭や体育大会には近隣自治会長に来場いただき、本校生徒の主体的で活気ある活動の姿をご覧いただいた。真澄祭は久しぶりの一般公開ということもあり、多くの方々に来校いただいた。 ・吹奏楽部がアリーナⅡにてふれあいコンサートを実施。近隣自治会に回覧をお願いし、地域の皆さまに楽しいイベントを提供。アリーナⅡの施設を近隣住民に広く知っていただく機会になった。	A	・近隣自治会の行事にも学校や生徒が関わられるような仕組みを考えてほしい。 ・普段の授業や生徒指導もある中で、行事の実施に感謝したい。 ・地域とのつながりの目指す姿を双方向と考え、地域に対して積極的に踏み出してほしい。 ・真澄祭や体育大会が非常に活気があり良かった。
グローバル推進	・持続可能な教育を行い、生徒の心の中に「平和の岩」を築く。 ・SDGs課題について考え解決を目指して行動する。 ・英語力の向上と海外研修や進学の意識を高める。☑	・ユネスコスクール事務局から紹介されるイベントを生徒に紹介し、参加する。 ・国内外の他校と、オンライン・対面を通じて交流を行う。 ・SDGsに関わるアクションを生徒が主体的に起こせるようにファシリテートする。 ・海外研修(オーストラリア、ニュージーランド、モンゴル)を円滑に行う。 ・英語力の向上、グローバル科目の6年一貫教育体制を更に強固なものにする。 ・海外進学への意識を高める。	A	・ユネスコスクールとして元オリンピック選手のエコアスリートや海外にある多数の学校と気候サミットをおこなった。 ・10月21日に全国規模の環境シンポジウムを行い、全世界に気候危機を発信した。 ・英検1級合格者3名をはじめとして、レベルの高い級にチャレンジする生徒が増えている。 ・新型コロナが5類に移行して初の海外研修も多くの生徒が参加しグローバルを体験した。 ・グローバルマインドの広がりをさらに学校全体として取り組んでいく。	A	・もっと前に進めてほしい。他校との差別化・開誠館の教育スタイルの根になっている。諸協会・団体や外国人学校との協力や行事、活動も推進してほしい。 ・部活が忙しくてあまり関われない生徒もいると思うが、情報発信をさらに活発にしてほしい。 ・英語力が向上しているようなので今後も継続してほしい。 ・評価としては良いが、基となる数値を提示してほしい。